

令和2年度 国立中央青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習

【必修】教育の最新事情【選択必修】学校における危機管理上の課題と対応

令和2年12月5日（土）～12月6日（日）

○目的

小中高等学校，特別支援学校及び幼稚園の教員を対象に，免許状更新にかかる必修領域及び選択必修領域の講習会を，静岡大学及び御殿場市教育委員会と連携し実施することにより，喫緊の教育課題についての理解を図る。



○参加者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭・その他
2日間のべ70名（必修35名，選択必修35名受講）

○事業の内容

【必修①】「子ども観，教育観等についての省察」「教育的愛情，倫理観，遵法精神その他教員に対する社会的要請の強い事柄」「居場所づくりを意識した集団形成」「国の教育政策」「世界の教育の動向」及び試験

講師：静岡大学 教職センター准教授 松尾 由希子 氏

「性的マイノリティ」に焦点をあてた講義・実習を行った。

前半では，ワークシートで参加者の既習の知識を振り返り，グループで話し合うことで「性的マイノリティ」に関する現状と課題について理解を深めた。

後半は，講師の実体験も交えながら，性的マイノリティの児童生徒が抱える心身の困難さを知り，そうした悩みを抱える児童生徒に対する教員としての支援や対応に関することを学んだ。

学校現場では，性の多様性に関する研修や実習がほとんど行われていないのが現状で，参加した先生方にとっても，正しい視点や知識を身に付ける機会となった。



【必修②】「子どもの発達に関する，脳科学，心理学等の最新知見に基づく内容」「特別支援教育に関する新たな課題（LD，ADHD等）」「カウンセリングマインドの必要性」及び試験

講師：静岡大学 非常勤講師 加藤 陽子 氏

子どもの発達や，特別支援教育に焦点をあてた講義・実習を行った。

前半では，様々なカウンセリングスキルや，脳科学や心理学の視点から考える子どもの発達に

ついて理解を深めた。特にカウンセリングスキルについては、児童生徒のみならず保護者への対応にも活かせる内容であった。

後半は、特別支援教育を中心に、発達障害を抱える児童生徒の現状や課題を理解し、どのように対応し支援していくべきかを学んだ。また、ワークを通して、発達障害を抱える児童生徒がどのように物事をとらえているかを体感し、発達障害についての理解を深めた。



【選択必修】「学校における危機管理上の課題と対応」「教育相談」及び試験

講師：静岡大学 教職センター講師 金子 泰之 氏

「教育相談」に焦点をあてた講義・実習を行った。

前半では、自己理解、他者理解について学んだ。ワークシートを用いながらグループワークを行い、子ども理解につなげた。

後半は、学校における危機管理上の課題として「いじめ」を取り上げ、その構造やプロセスについて、ワークシート等を活用して理解を深めた。

学校現場でもさまざまな問題が起きているが、参加した先生方にとって、その解決の糸口を見つける機会となった。



《受講生の感想から》

- 教育現場で、LGBTの子どもに対してどのように対応していくのか勉強になりました。
- 中途半端な理解をしていた「性の多様性」を、しっかりと理解できました。
- カウンセリングと発達障害に関して学ぶことができました。今日学んだスキルを実際の学校現場で使ってみたいと思います。
- 生徒との関わり方について考えを改めることができました。脳に関わる知識を身につけることができ、自分の見識が広がりました。
- 他者を理解するためには、まず自分自身を理解しないといけないという考え方にすごく共感しました。
- いじめ問題について、今までの学校での対応を振り返ることができました。

《成果と今後の課題》

受講者のニーズに合った講義内容であったので、講習会に対する満足度が大変高かった。また、グループワークを通して受講者同士が意見交換できたことも好評であった。

学校教育に期待されていることや、それに対する課題も多様化してきている。こうした中で、今後も受講者のニーズに応えうる講習会になるように、静岡大学や御殿場市教育委員会ともさらに連携を図りながら、模索していきたい。